２０２３年１０月２２日　Ｎｏ．３６９０

先週の講壇から　　**〝行く先も知らず〟**

ヘブライ人への手紙 11 章　１節～８節

聖句「信仰によって、アブラハムは…出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです。」（11:8）

１．**《教会から離れて》**　幼児洗礼を受け、毎週日曜学校にも通っていた私ですが、中学時代、疑問に応えて貰えず、教会を離れました。高校時代、入寮して親の目からも離れたのを良い事に、随分やんちゃをしましたが、そんな経験が大人になってから活かされました。勉強が苦手だった私は「大学に入ってまで英語を勉強するくらいなら、アメリカに留学してやる！」と啖呵を切ったのですが、物の弾み、父が留学先を見つけてくれて、渡米する羽目になってしまいました。

２．**《信仰によるもの》**　1960 年、留学先では、そのままクラスに放り込まれ、単位の取れない惨めな日々でした。翌年、仕事で渡米した父が聖書を与えてくれました。「出で行けとの神の御声をきいて、行くところを知らずして出で行けるアブラハム。これが信仰の父と云われるアブラハムだ。君が何もわからずに出て行ったのもこういう素朴な信仰によるのだと私は信じて祈りつゝ送り出した。」と書き付けてありました。確かに「何もわからず」アメリカに行きましたが、それが「信仰によるもの」だ等と、親父も何をボケたことを言うのかと思っていました。しかし大勢の人たちの助力で、５年半かけて卒業することが出来ました。

３．**《仮住まいの生活》**　帰国の旅費稼ぎに、スラム街の高校で教師をしました。帰国後、母校の鹿児島分校で教えた時に、悪童の少年時代やスラムでの経験が私の肥やしに成っていると気づきました。その後、新潟、青森、再度の留学を挟んで、弘前、安中と「仮住まい」の「よそ者」の生活を送りました。弘前の予備校で教えていた時、窓の外の雪景色を眺めながら「この世に神が居られないなら、教育なんか意味が無い」と直観します。雪原が神の掌、その中に置かれている自分、さながら、仏の指にぶつかった孫悟空のような体験でした。以来、神さまが私に与えられた役割について考えるようになりました。2000 年に短大を辞め、NPO 法人国際比較文化研究所を立ち上げました。定款には「敵をも愛する隣人愛をもって平和な多様化社会の実現に向けて」と明記されています。友のネットワークが地球を覆う時、本当に平和な地球社会ができると信じて、二十数年活動しています。

太田敬雄